

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500660		
法人名	株式会社じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム 菜の花豊平館		
所在地	北海道札幌市豊平区豊平3条8丁目		
自己評価作成日	平成30年10月22日	評価結果市町村受理日	平成30年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・防火扉、発電機、ジェットヒーター等、災害に対して特化した設備を整えている。</li> <li>・入居者様、御家族が相談しやすい体制作り力を入れている。</li> <li>・入居者様が過ごしやすく快適、安全に生活が送れる様に家族様も含めて相談した上で環境作りを行っている</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/mdex.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=0190500660-008&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/mdex.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=0190500660-008&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マルシェ研究所
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2-1901
訪問調査日	平成30年11月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

菜の花豊平館は運営する法人の8カ所目のグループホームとして平成23年10月に開設しました。地下鉄東豊線の豊平公園駅と東西線東札幌駅の中間に位置し、近隣には複数の高校・大学や緑豊かな公園がある住宅地にある事業所は二階建て2ユニットで、防火扉や垂直式救助袋、避難スロープと防災対策が整備された建物です。大正時代から運輸業を営み地域に親しまれている会社が運営母体で、本社は事業所から徒歩圏内に構えており緊急時・災害時のバックアップ体制が構築されています。管理者は、積極的に参加している地域の介護支援専門員会議や管理者会議では中心的な役割を果たしており、運営推進会議では多業種も巻き込んだ福祉ネットワークの形成に尽力しています。今年度、従来からのケア理念を、より利用者に沿った具体的支援となるものへと、職員間で4カ月協議を重ね「らしさを活かして笑顔の花を咲かせます」へ変更しています。この理念を、利用者の尊重・一つ一つの支援の源として、十分な職員数を確保できない中でも、地域や家族の協力を得て、業務内容を工夫しながら地域の期待・家族の期待に応えています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度、介護の目標として具体的な理念に変更。周知は出来ているが浸透はまだしていません。	より利用者に沿った理念の策定へと、職員間で約4カ月協議を重ね、ケア理念を「らしさを活かして笑顔の花を咲かせます」と変更しています。家族・地域へは面会時や運営推進会議時に理念の周知を図り、ひとつひとつのケアへの浸透に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を基盤に、地域の清掃、児童会館との定期交流、近隣飲食店との物資提供等を企画する等、地域との交流を図っている。	児童会館での夏祭りやハロウィンなどで交流を深めています。年2回の地域向け広報誌「菜の花通信」で認知症・高齢者福祉の啓発をしたり、春・秋の清掃や花苗植えなどの町内行事に積極的に参加することで、地域と良好な関係が続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口として玄関に掲示を行っている。また地域向けにグループホームの広報誌の発行を行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて日々の様子を報告すると共に、行事参加への促しや関わり等を提案。新たな繋がりがりや企画を行う事が出来ている。	自治体職員、町内会役員、家族をはじめ近隣に新規開店した飲食店や同地区の他法人GHの管理者が出席して年6回開催し、参加者間の新たな連携の場となっています。直近では家族協力について提案があり、検討しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を中心に、取り組みについての意見交換を行い、協力関係を築いている	連合町内会の調整役でもある地域包括職員から、毎回の運営推進会議等で様々な情報を取得しています。管理者はケアマネジャー連絡協議会で地域ニーズの把握や事業所が提供可能なことを検討するなど、自治体・地域との協働を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置。身体拘束等の適正化指針を基にカンファレンス、運営推進会議の場にて議題として上げ取り組んでいる。また、当館に限らず、じょうてつケアサービスとして、身体拘束を行わないことを基本方針としている。	法人基本方針として「身体拘束適正化指針」を整備しています。また今年度の介護保険法の改訂を受け「身体拘束適正化委員会」を設置しカンファレンス等で職員の意識向上を図っています。特に「スピーチロック」に注意した声かけについて、ケース例を基に職員間で話し合い、効果を上げています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて虐待防止について学び、起こさない、起こさせない様、環境を整えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて権利擁護に関し学ぶ機会を持ち、必要性について話し合いの場を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定・重要事項説明書を用いて、契約時に本社から十分な説明を行った上で契約を結んでいる。またご家族様の疑問点など、都度説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、日々の面会などで得たご家族の意見を踏まえ、運営を行っている。またご家族の面会時職員が日々の状況を伝える事で意見が言いやすい雰囲気づくりに努めている。	日常生活の中から聞きとった利用者の意見等を、記録しカンファレスで報告しています。家族からは9月の地震・停電を受け、運営推進会議で家族協力が提案され検討しています。昨年のアンケート調査では清掃の改善を行っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、面談を通じ、職員からの意見を抽出、業務内容の変更やケアの方向性などが反映出来る様にしている	3か月に一度実施していた職員面談は、今年度実施できていませんが、カンファレンス等を利用して職員意見を聴き、直近では労働環境の改善が喫緊の課題でもあり、人員の補充等による解決に取り組んでいます。	近年の労働人口減少に伴い、当該事業所も人員基準を満たしてはいるものの慢性的な人員不足が続いています。支援の質向上を図るためにも早急に人員を補充し、運営・就業環境へ職員意見がより反映できる体制を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の職員は、人員基準をみたしているが、慢性的な人員不足。対策は図っているが、人員の不足感は続いている。結果、労働環境は改善されておらず、給与水準も低い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の技量に応じ、法人内外の研修及び講習が受講出来る様に整備を行っているが人員が定着されず、受講自体が出来ず。結果、法人内の研修に留まってしまっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者連絡会、外部研修等のグループワークを通じて交流が行なわれている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安等傾聴し、安心して頂けるよう信頼関係作りに努めているが、人員不足で(基準は満たしている)行き届かない時がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が変わった事で、信頼関係を再構築している。ご家族と共にケアの方向性等を決めていく事で信頼関係が築けるように配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族とよく話し合いを行い、ホームで支援出来る事、出来ない事をはっきりと伝えた上で支援検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側の関係になってしまっており、暮らしを共にする関係は築けていない。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度、ご家族にご本人の心身状況の変化等を伝え相談し、共にご本人を支えていく関係を大事にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係継続支援を行う重要性についての意識が薄く、その場での対応、支援が目立つ	契約時に作成した詳細なアセスメント「生活暮らしのシート」は全利用者分を職員全員が確認し支援しています。家族宅への外出・外泊や友人との交流があり、理念である「その人らしさ」の生活習慣を継続できるよう支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	BPSDの発生を意識してしまい、利用者同士の交流は一部に限られてしまっている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者はサービス利用が終了しても必要に応じて相談等に応じている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・表情等、また職員同士の情報共有を基に意向や、暮らし方の把握に努めている	担当職員が日常の様子や会話等から把握した利用者の意向等は、カンファレンスで職員が共有しています。利用者の体位によって眠りに変化があることに気づき、クッションの利用で熟睡できるようになったケースがあります。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に情報を頂き、ご本人と確認しながら馴染みの生活、習慣が継続出来る様に支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で心身の変化を記録に記載。申し送りを行い共有を図ると共に、カンファレンスの場でさらに深く掘り下げ理解を深めるよう配慮している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、モニタリングで課題を取り上げ検討を行い、御家族や他職種に相談し介護計画を作成している。	初回の介護計画策定時は「週間介護計画」も立案し、利用者の生活の流れを確認しています。その後は日常的に確認している利用者・家族の意向を基に、医療面の情報も加え、3か月ごとに介護計画を策定しています。家族の関わり方についての方向性もあわせて確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき、様子を個人記録に記入。担当職員を中心に新たな課題、現状把握を行い、さらにカンファレンスにて話し合いを行い、介護計画を立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の入居者様のニーズに応じ、柔軟に対応が出来る様に努めているが、人員不足(基準は満たしている)により対応が出来ない事が多い		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	児童会館との交流や近隣飲食店などの交流を新たに始める等、より広く地域を意識し暮らしが楽しめる様に支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の状態をかかりつけ医に報告し、日常生活のアドバイスや、薬の調整を行って頂いている。また、専門医の受診が必要な際は、ご家族、かかりつけ医と報告、連絡、相談を欠かさず行っている。	認知症専門医受診時や日常生活情報が必要なかかりつけ医への通院時は職員が同行しているほか、24時間対応の協力医体制があります。入居時に「望む医療・望まない医療」を確認し、利用者・家族の意向に沿った医療の提供に努めています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師及び協力医療機関の看護師に都度、心身の状態を報告し助言を受けながら受診等に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、ご家族と密に連絡を図り、医療機関に適切な情報提供を行っている。医療機関、ご家族と直接相談しながら早期退院が出来る様に連携を図っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針の説明を行うと共に、重度化、終末期が予想される際は、医療機関と連携を図り、ご家族、ホーム、医療機関が話し合う場を設ける等、共有が行える様に支援している。	重度化・終末期の指針は入居時に説明し、同意を得ています。事業所として看取りケアは未経験ですが、終末期の支援は日頃の利用者意向を尊重した支援の先にあるものと捉え、ターミナル研修等で情報を得ながら、医療機関との連携強化を図っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の一部は救急救命講習を受講済み。社内研修の一環として、全ての職員が受講できるように定期的に受講できるように整備を行った。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施、災害対応マニュアルの整備を行っている。また、さきの地震で課題となった部分の改善を行っている。	避難訓練は年2回、直近では今年5月に夜間想定で実施しています。水害避難訓練では1階から2階への移動を課題と把握しています。9月の地震では災害マニュアルの実践ができましたが、停電の長期化や情報収集等の課題対策を検討しています。	防火扉、発電機設置などのハード面に加え、災害対策マニュアルを整備し実践しています。地震・停電の経験を活かし、非常備品の準備等、迅速な対応をとっていますが、災害の長期化・情報収集方法も課題としており更なる体制の強化を期待します。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	集団的な対応が主となり、一人一人の人格に応じた支援は形成されていなく職員側目線で支援されている事が一部見られる	利用者の人格尊重は理念にも謳われ、個々の人生の歩みを知り、気持ちを推し量った声かけを職員共有で進めています。またユニット目標に「我が家」を掲げ、プライベートな空間・時間の確保を支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を聞き出す声掛けやアプローチは行えているものの、実践に繋げることが出来ない		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々のペースに沿った支援を行っているが、行き過ぎた要求に対しての職員負担が大きい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が衣類を選択できるような声掛けや身だしなみが整えられる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ自分で食事をして頂けるよう食器や盛り付け等工夫している。食事準備や後片付けが出来る方には一緒に行っていただいている。	自ら下膳や漬物作りをする利用者を見守り、利用者一人ひとりが自分のペースで安全に食事が出来るよう、席や食器等にも配慮しています。リクエストに応じてラーメンメニューを追加したり、その日の食材でアレンジをして提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ栄養摂取が出来る様に食事形態等を工夫している。また、夏季や必要時にはゼリー等を準備し水分確保が出来る様に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや必要に応じた介助を行っている。断られた時は時間をおいて声掛けしている。必要な方は歯科往診で口腔ケア・治療を受けられている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	カンファレンスを中心にパターン、習慣、間隔等を情報共有し、排泄の失敗が減らせるように配慮している。	水分量・食事量のチェック表と排泄管理表で利用者個々のパターンを把握し、排泄の自立支援をしています。適切な誘導の効果で、現在は夜間も含めて9割が自立者で、おむつ利用者の皮膚状態も管理しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には適度な水分を提供したり運動を働きかけ、生活上の工夫で難しい方はかかりつけ医に相談し必要に応じた支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	曜日、時間帯は決めず、その日の状況に応じ入浴が出来るように支援している。	入浴拒否者が多いユニットでは、利用者のタイミングでいつでも入浴ができるよう曜日・時間を決めず対応しています。3方向からの支援が可能な浴槽やミストシャワーが配備されています。家族の申し出で一緒に入浴介助をおこなった事例もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	元々の生活習慣や個々の体調、体力に応じて休息を支援している。夜間はドアの開け閉め等ゆっくり休める様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診記録、お薬情報を基に回覧、確認等を行っているが、職員により知識量にバラつきがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を担って頂く事により、張り合いのある生活が送れる様に支援しているが一部、BPSDの発生を気にして、関わりが薄い事が見受けられる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期は散歩に行ったり、外気浴を行っていた。またおやつや買い出し等に同行したり個別に買い物に出かける方の支援をしているが慢性的な人員不足があり、回数は少ない。	個別外出では日用品やおやつや買い物の購入、通院時のドライブ・外食などを支援しています。利用者個々の尊重を考慮し、趣味や希望の合う少人数での外出を勧めています。職員数が不足がちではありますが、家族の協力を得ながら外出支援に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にお小遣いを所持している方はおられず、必要物品の買い物はご家族様か事業所で代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	管理者・リーダーが希望時電話の取次ぎを行っている。手紙のやり取りを行っている方はおられない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるよう、共有空間に四季に応じた壁飾りを掲示している。リビングが見渡せるカウンターキッチンがあり、調理の音や匂いが感じられる空間となっている。不快な刺激が生じないように配慮している。	利用者と職員が共同で制作したオーナメントや壁飾りで季節が表現しています。広く採光の良い食堂では心地よい音楽が流れ、ソファの前に置かれたテレビのほか、耳の遠い利用者用に字幕表示設定のテレビも設置されています。2階のベランダは、外気浴・花壇・家庭菜園に活用しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごす入居者様が多く、利用者様同士で会話や食事ができる様、椅子の配置に工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談の上、入居時に馴染みの家具や御家族との写真、思い出の物をお持ちいただき、居心地良く過ごせる様工夫している。	各利用者が馴染みの家具、電化製品等を持ちこみ、自由に配置しています。ベッドカバーを数カ月かけて自作したり、お気に入りの歌手のポスターを貼るなど利用者の生活習慣や個性を尊重し、清掃等の支援で寛げる環境となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札をつけたり、トイレに表示を付け、ご本人が混乱しないよう配慮している。戸口やベッドの角にクッション材で保護したり、極力危険な物を置かない空間となっている。		